



平成27年9月14日

関係各位

創業における新たな事業化支援スキームの立ち上げ (カーブアウトベンチャー組成による創薬促進) ～第1号ベンチャー「株式会社ピオニエ」設立～

【お問合せ】

大阪商工会議所 経済産業部 (根来・中野・吉川)

TEL: 06-6944-6484

株式会社ピオニエ (伊藤)

TEL: 06-6944-6484

- 大阪商工会議所は、医薬品の開発促進に向けた産学連携を支援する「DSANJ (創薬シーズ・基盤技術アライアンスネットワーク)」の新たな事業として、製薬企業が有する創薬シーズの開発に専念するカーブアウトベンチャー企業(※)を設立し、新薬の上市に向けた企業の研究開発を促進する公的機関が実施する我が国初の事業化支援スキームを立ち上げた。

※カーブアウトベンチャー企業とは？

大企業等から開発シーズを切りだし (CARVE OUT)、出資、人材等でシーズを切り出した元の企業と一定の連携を保ちながら、成長を目指すベンチャー企業。これに対し、スピナウト (スピノフ) ベンチャー企業は、人材が元の企業から飛び出し、企業間の関係も薄くなるものを指すのが一般的。

- 今般、本スキームを活用した本会議所出資 (50万円) による第1号カーブアウトベンチャーとして、「株式会社ピオニエ」(代表取締役: 伊藤義邦氏、大阪府中央区) を設立。第三者割当増資により大阪バイオファンドはじめベンチャーキャピタルから計2億5000万円の資金調達を実施した。今後、この資金を活用して、製薬企業が有する創薬シーズの新薬に向けた研究開発を促進する。
- 本会議所は、DSANJによる産学連携の商談会を平成22年より運営し、これまでに共同研究が26件成立するなど着実に成果を上げている。今回のスキームは、同商談会を利用する製薬企業からのニーズに基づいて立ち上げたもので、外部資金を活用することで、企業が有する限り多くの創薬シーズの研究開発機会を拡大するとともにスピードアップを図り、大阪が強みを有するライフサイエンス産業の一層の振興を目指す。

以上

- <添付資料> 資料1 カーブアウトベンチャーを活用した創薬支援スキームの概要
資料2 カーブアウトベンチャー第1号案件「株式会社ピオニエ」の概要

平成27年9月14日

カーブアウトベンチャーを活用した創薬支援スキームの概要

大阪商工会議所

1. 新たなスキームの概要（別紙1参照）

○全体概要：製薬企業の創薬シーズを自社外へ外出しし、本会議所を含め外部資金を得て、あらかじめ定められた期間や資金等の条件の下、研究成果の達成をめざすベンチャー企業を設立。

当該ベンチャー企業は、所期の成果を生み、あらかじめ定められた時期に、創薬シーズを提供した製薬企業等によるM&Aのほか、状況によりIPOやライセンスアウトを目指す。

○主な流れ：

(1) 製薬企業より本会議所（DSANJ事務局）への案件の持ち込み・相談



(2) 本会議所のコーディネーター、ファンド運営者等により、案件の評価。具体的な新会社設立に向けた取り組み（資本計画・ビジネスプラン等の策定。関係先の了承、その他企業設立に向けた取り組み）を準備



(3) 機関決定を経て、本会議所の少額出資により新たなベンチャー企業設立。
※本会議所が100%出資の他、他社との共同出資のケースもあり得る。



(4) ベンチャー企業が第三者割当増資を実施し、ファンドが引き受け。



(5) ベンチャー企業があらかじめ定められた条件で一定期間研究開発。



(6) 一定期間終了後、シーズを提供した製薬企業等による研究成果を含めた当該ベンチャー企業のM&Aを目指す

※シーズの内容、ステージによっては、あらかじめ定めた条件の下、必ずしもM&Aのみならず、さらにベンチャー企業がIPOやライセンスアウトに向けて事業活動を延長する場合もありうる。



(7) 出資者である本会議所は、キャピタルゲインを獲得。事業活動の再投資へ活用。

2. 期待される効果

- 資金等リソースの問題のため製薬企業内で十分な研究開発に取り組めない創薬シーズに関して、外部資金を活用することで研究開発の機会拡大とスピードアップを図ることが可能となる。
- 創薬分野における研究開発や投資に関する情報が大阪に集積し、リスクマネー（成長マネー）投資や創薬関連の人材の流動性を高めることにつながる。
- このスキームを活用したベンチャー企業が次々と誕生し、数年後に一定の成果を上げることができれば、ライフサイエンス分野における大阪の強みを広く示すことができ、本分野における大阪への求心力の向上にもつながる。

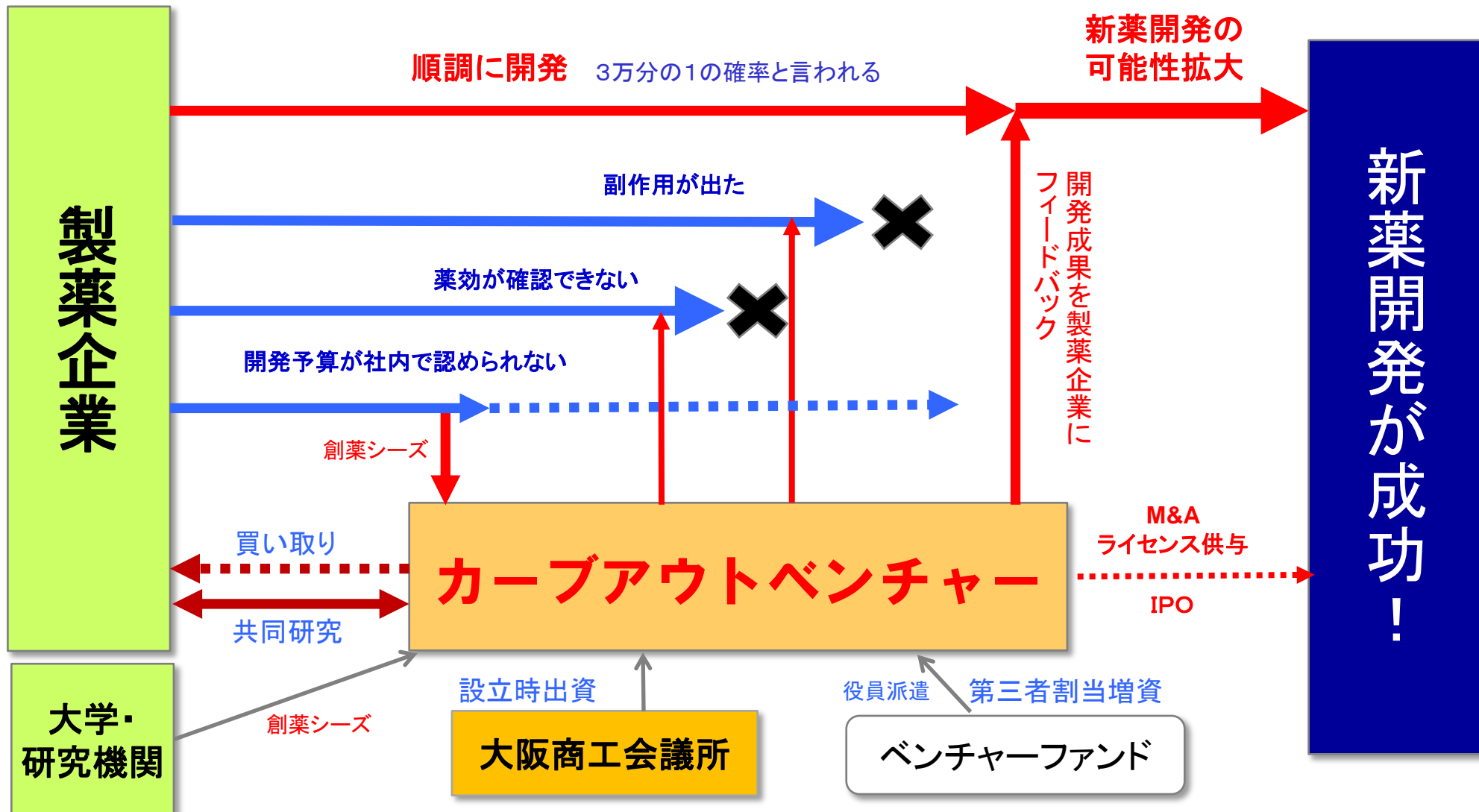
3. 本スキーム設立に至る背景

- 製薬企業の新薬開発においては、多額の研究開発費が投入され、3万分の1とも言われる成功に向けて、各社がしのぎを削っている。
- しかしながら、株主への説明責任等の課題により、他の産業よりも高額の研究開発費（売上に占める研究開発費の割合：製薬は約11～12%、電気器械器具は約5%）をさらに引き上げることは、各社とも困難な状況にある。この結果、今後の研究開発次第では新薬につながる可能性のあるシーズが、副作用や薬効を確認する以前の段階で、研究開発がストップしてしまうケースも少なくない状況である。このため、米国等ですでに行われているように、CRO（臨床開発受託会社）やベンチャー企業との連携等、外部資本を活用した研究開発の取り組みが課題となっている。
- 本会議所では、DSANJ等のライフサイエンス分野におけるビジネス振興事業を通じて、創薬シーズを有する複数の在阪製薬企業から、こうした課題に対応するための新たな取り組みとして、DSANJを活用した新たな支援策の創設を望む声を受けていた。
- 一方、投資先を探すベンチャーキャピタルからも、ライフサイエンス分野のビジネス振興において幅広い実績を有する本会議所に対し、有望な投資先を広く発掘するための仕組みを求める声が寄せられていた。
- 本会議所では、こうしたニーズに応えるべく、産学連携による創薬支援事業であるDSANJ事業を拡大し、カーブアウトベンチャー企業を組成することで、製薬企業等が有する創薬シーズの研究開発機会を増やすとともに、研究開発のスピードアップを図る新たなスキームを創設することになった。

以上

カーブアウトベンチャーを活用した医薬品開発促進スキーム

- 「大阪商工会議所」の支援により、大学・研究機関と製薬企業等との共同研究を促進する。
- 製薬企業等が有する開発シーズを「カーブアウトベンチャー」として新たに設立し、そこに資金と人材を投入して開発を行い、実用化を促進する。



平成27年9月14日

カーブアウトベンチャー第1号案件「株式会社ピオニエ」の概要

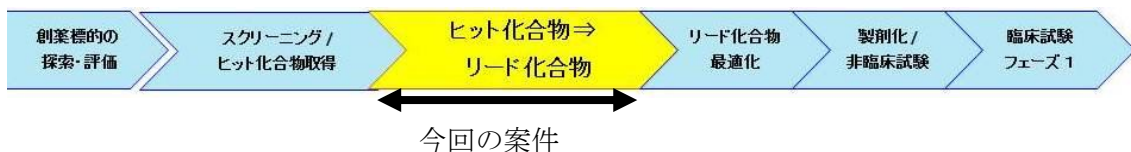
大阪商工会議所

【概要】

- 大阪商工会議所が50万円を出資し、カーブアウトベンチャー企業を設立。同ベンチャーが、今回のシーズ提供会社である塩野義製薬が保有する疼痛に関する創薬シーズについて、塩野義製薬との共同研究を行うことにより研究の進展をめざす。
- 大阪バイオフンド等を引受人とする第三者割当増資により2億5000万円の資金を調達、研究開発を進める。
- 研究開発後は、塩野義製薬を含む外部機関による当該ベンチャー企業のM&A等をめざす。
- ベンチャーキャピタルのリスクマネー（成長マネー）を、製薬企業の研究開発振興に直接結び付けるためのスキームとして、今後の展開を見据えた第1号案件となる。

【新会社概要】

- 商号 株式会社ピオニエ（フランス語で先駆者＜PIONNIER＞の意味）
- 所在地 大阪府中央区本町橋2-8
- 資本金 2億5050万円（資本準備金含む）
 - ※設立出資金 50万円（本会議所出資）
 - ※第三者割当増資 2億5000万円
 - （引受人：大阪バイオフンド、日本ベンチャーキャピタル株式会社、SMBCベンチャーキャピタル株式会社）
- 経営陣 代表取締役 伊藤 義邦 氏（元藤沢薬品工業、化学合成経験者）
取締役 鴻池 敏郎 氏（元塩野義製薬、化学合成経験者）
取締役 多賀谷 実 氏（日本ベンチャーキャピタル取締役）
- 事業内容 医薬品の研究及び開発ならびに附帯又は関連する一切の事業



以上